

創立五拾周年記念誌

東京都立向丘高等学校

## 発掘された江戸時代の生活の跡



上図に発掘調査区域内より発見された遺構図を掲げましたが、その主な遺構と数は溝跡3条、井戸跡13基、地下式坑（穴蔵）30基、採土坑12基、土坑107基です。これらの遺構の多くは江戸時代につくられたものですが、使用に耐えられなくなると埋められたり、ゴミ穴に転用されたりして順次つくり替えられた結果、最終的に調査区域内はこのように穴だらけの状態となっています。しかし、

これら遺構群の中に地面を仕切ったとみられる溝跡や植え込跡、遺構が希薄な隙間を見とることができます。この発掘調査から得られた情報と文献調査の成果から、御先手組同心の個々の屋敷地は想定線で示したようにおおよそ間口4間余（約7.3m）、調査区域の東側を走る現本郷通りの西縁から奥行32間（約57.6m）の鰻の寝床のような敷地であったことが判明しました。

（東京都遺跡調査会発行「青花繚乱」より）

